１．研究主題

思いやり、認め合う児童を育てる道徳教育

～ 考えを広げ、深め合う交流活動を取り入れた授業実践を通して ～

２．主題設定の理由

道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹にかかわるものであり、同時に、民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものである。小学校における道徳教育は、児童の人格の基盤となる道徳性を養う重要な役割がある。２０１８年度から始まった「特別な教科　道徳」では、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図ることが求められている。

　　本校は、児童数１３９名、各学年単学級という小規模校である。児童は、豊かな自然や学校に協力的な地域社会の中でのびのびと育ち、元気で素直に学習や活動に取り組む。また、これまでの本校の教育実践の積み重ねにより、地域に目を向け、地域への愛着を深めることもできている。その反面、自分自身のよさや成長に気づけないために自分に自信がもてなかったり、自分の考えや思いをうまく表現できなかったりという児童のもつ課題もある。

このような実態から、道徳教育を通して、自分の意見を素直に伝える力や、相手の意見に耳を傾け互いを認め合う力を育んで行くことが大切であると考えた。

令和元年度は、「まずは、やってみよう」という合い言葉の元、道徳教育の要である道徳の時間の充実を目指し、全担任が交流活動を取り入れた授業作りに取り組んだ。その結果、自分の考えや思いを素直に出し合ったり、児童が多様な意見に触れたりする姿が見られるようになった。また、指導者自身が、道徳教育における道徳の時間の重要性を再認識し、「思いやり、認め合う児童を育てる」ための手立てを考えることができた。一方、自分の考えをもっていながら進んで発言することをためらう児童や、自分の考えに固執して他の考えを受け入れることが難しい児童も見られた。令和２年度は、道徳の時間における交流活動の方向性をさらに進化させるため、多様な意見を表出させたり、触れさせたりするための中心発問や手立てをどうするか、それに伴って交流活動をどのように設定するかといった観点で授業づくりに取り組んだ。２年間、研究を進めてきたことにより道徳の時間の学習展開が構築され、児童が自分の考えをもち、抵抗感なく交流活動に取り組む姿が見られるようになった。一方、多様な意見を表出するための中心発問はもちろん、児童への切り返し発問やゆさぶり発問の重要性を改めて感じた。また、限られた時間の中で十分な教材研究を行うには困難さもあるため、指導者同士で中心発問等の共有化を図る必要性や、児童の考えの変容を見取るための手立てや、評価の観点を統一することの必要性等の課題がみえてきた。このようなことから、効果的な中心発問等や交流活動の在り方について研究を深めること、そのためのワークシートの工夫や評価の観点の見通しや共通理解が必要であると感じた。

そこで、三年目となる今年度も道徳の授業実践を主軸とした研究に取り組んでいく。昨年度見出した、道徳の時間における中心発問等の設定と交流活動の方向性をさらに進化させ、考えを広げ、深める授業となるように研究を深めていきたい。また、北明小の道徳の授業スタイルを整え、児童が自分の意見を安心して伝え、友達の意見を受け入れて、自他の思いをふり返りながら思考を深めることができれば、自己も他者も、よりよく生きるためにはどうすべきかを考え続ける姿勢を児童に身に付けさせられるのではないかと考える。

３．研究の目標

　　道徳の授業を中心に、交流活動を充実させ、「思いやりの心、認め合う心」をもった児童を育てるための方策を明らかにする。

４．研究内容と方法

（１）授業づくりについて

・交流活動の充実

①発問（中心発問、ゆさぶり発問、切り返し発問）の工夫

②表出のためのツール･･･役割演技、ハートメーター、選択肢、話型など

③板書の工夫

④ワークシートの工夫

⑤評価

（２）全教育活動との連携

　　・行事や集会後のふり返りカードを「たすきコーナー」に掲示

・たてわり活動や児童集会などで感想交流の場を設定

（３）児童の実態把握

　　・毎学期、道徳に関するアンケートの実施、考察、活用

　　・年２回のＱＵテストの実施、分析

（４）理論研究

　　・毎時間の評価について検討

　　・夏季休業中に講師招聘を行い、中心発問や評価等についての校内研修を実施

（５）その他

　　・単元計画の見直し･･･内容項目のユニット化

・ワークシートや掲示物の共有化

・学級担任全員の研究授業と授業研究会の実施

・保護者・地域との連携･･･ふれあい道徳授業参観、学級通信等での保護者への啓発

・道徳コーナーの設置

５．研究の全体構想図

本校の学校教育目標

学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ かがやく 北明っ子の育成

～ひとみ・こころ・いのち かがやく北明っ子～

研究主題

**思いやり、認め合う児童を育てる道徳教育**

**～ 考えを広げ、深め合う交流活動を取り入れた授業実践を通して ～**

目指す子ども像

○ 自分の考えや意見を、自由に発表・発言することができる子ども。

○ 他人の考えや意見を受け入れたり、取り入れたりすることができる子ども。

○ 思いやることができる子ども。

学習環境の整備

○行事や集会後のふり返りカードを

「たすきコーナー」に掲示

○道徳コーナーの設置

児童の実態把握

○道徳に関するアンケートの実施、

分析、考察

○ＱＵテストの実施、分析

交流活動を主軸とする授業実践

○発問の工夫

○板書の工夫

○ワークシートの工夫

○表出のためのツール

○評価

○単元計画の見直し

全教育活動

○行事や集会などの様々な場面でのふり返りや、感想交流の場での発表・発言

○各教科の授業における交流活動での発表・発言

○保護者・地域との連携

児童の実態

○自分の考えをもち、発言できる児童が増えている。

●自分の考えをもちながらも進んで発言することをためらう児童や、自分の考えに固執して他の考えを受け入れることが難しい児童もいる。

６．研究の組織

校　長

研究推進委員会

校長・教頭・教務主任・武富・鶴﨑・原・福田

全　体　会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 授業研究部 | | 専　門　部 | |
| 下学年（ 武富 ） | 上学年（ 原 ） | 調査部（ 福田 ） | 環境部（ 鶴﨑 ） |
| 白濱、島ノ江、武富  福田、鶴崎、井田 | 原、川口、野口  岩永、副島、古川  大嶋 | 福田、岩永  御厨、大嶋 | 鶴﨑、副島、古川 |

７．今年度研究の日程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 | 日 | 内　容 | |
| ４月 | １４日（水） | 全体会 | 今年度の研究の方向性と研究テーマ  組織の説明、研究授業の日程調整 |
| ５月 | １２日（水） | 専門部会  授業研究部 | 活動計画の作成  教材決め、教科書を持ち寄って教材のユニット化 |
| ６月 | ２日（水）  １６日（水）  ３０日（水） | 授業研究部会  グループ研①  全体会 | 研究授業の教材選択  ３年１組　教諭（　武富　富士美　）  全校研の指導案検討 |
| ７月 | ７日（水）  ２８日（月）  ２９日（水） | 全体授業研究会❶  専門部会・授業研究部  全体会 | ６年１組　教諭（　野口　貴志　）※講師招聘  各専門部での活動、指導案作成  ＱＵテスト（１回目）分析　※講師招聘 |
| ８月 | １８日（水） | 全体会 | 校内研修「 中心発問や評価(仮) 」※講師招聘 |
| ９月 | ８日（水）  １５日（水） | 全体会  グループ研② | 全校研の指導案の検討  ４年１組　教諭（　原　和義　） |
| １０月 | ２７日（水） | グループ研③ | ２年１組　教諭（　島ノ江　有加　） |
| １１月 | １０日（水）  １７日（水）  ２４日（水） | 全体会  全体授業研究会❷  グループ研④ | 全校研の指導案検討  １年１組　教諭（　白濱　久美子　）※講師招聘  ５年１組　教諭（　川口　梓　） |
| １２月 | ８日（水）  １５日（水） | 公開授業  全体会 | 特別支援学級５クラス  研究集録について |
| １月 | １２日（水）  ２６日（水） | 専門部会・個人作業  全体会 | 道徳アンケート集計や集録のまとめ  校内研についてのアンケート記入  校内研アンケートをもとに今年度のまとめ |
| ２月 | ２日（水） | 全体会 | 次年度の方向性について |